

支部だより

北信越支部 ( <http://www.seppyo.org/~hse/> )

## ワークショップ「降雪に関するレーダーと数値モデルによる研究」の報告

日時：2002年5月15日(水)，午後3時30分～5時45分

場所：長岡雪氷防災研究所 大会議室

主催：長岡技術科学大学，長岡雪氷防災研究所，雪氷学会北信越支部

1. 降雪融雪期の河川流出モデルにおける降水モデルの必要性  
陸 旻皎 (長岡技術科学大学)
2. 降雪過程に対する地形の影響と降雪分布の形成  
中井専人 (長岡雪氷防災研究所)
3. 日本海沿岸域冬季の降水数値実験の検討  
熊倉俊郎 (長岡技術科学大学)
4. マルチパラメータレーダーシステムの開発と利用  
岩波 越 (防災科学技術研究所)

長岡技術科学大学と長岡雪氷防災研究所の両機関が行っている雪の研究で，共通するテーマについて話題を持ち寄るワークショップが開催された。話題を調整したところ上の4題になり，いずれも北信越支部共通の話題であるという認識から支部学習会として開催する運びとなった。広報から実施までの時間が短かったにもかかわらず，両機関以外，新潟市や新井市，つくば市から計25名参加者があった。

はじめに陸から，本集会の基調として，河川流出を求める上で重要な山岳域の雪のデータについて，観測点が少ないことからレーダーや気象モデルによる精度の高い推定の必要性が述べられた。中井は山岳地形が降雪に及ぼす影響について，その物理過程とモデルとの関連に関する研究成果と，長岡のレーダー観測から得られた降積雪分布の特徴について紹介した。熊倉はメソ気象モデルを用いた新潟県域を中心とした降雪分布の計算結果を

紹介し、モデル結果と実際との相違、モデル研究の今後の課題などを報告した。岩波は偏波の位相差から得られるレーダー反射因子を用いると、降水による減衰や地形の影響を受けにくい降水観測ができるという最近のレーダー観測手法を用いた研究を報告し、同時にレーダーのリアルタイム出力を携帯端末に表示する実演を行った。

このように本集会は短い時間にかなり豊富な内容となり、議論の時間がやや少なかったが、閉会後も個々に話し合いが進み、この分野の関心の高さをうかがわせるものとなった。参加者は今後もこのような機会を持つことを確認して分かれた。

(長岡雪氷防災研究所 石坂雅昭記)

## 北信越支部学習会「山岳地からの河川流出モデル」の報告

講師：Dr. Vladimir Konovalov (Institute of Geography, Russian Academy of Sciences)

題名：山岳地からの河川流出モデル (Runoff modeling in mountain water sheds)

期日：平成14年6月26日(水) 10:00 - 11:30

会場：長岡技術科学大学 環境システム棟 7階会議室

参加者：22名

中国西域からロシアにかけての山岳部を含む河川流域をフィールドとした氷河の観測、河川流出の観測とそのモデル化についての講演であった。

タリム盆地北西部から北部にかけて流れるタリム川については、氷河からの融解流出が重要であるが、山岳域での広域直接観測は困難である。そこで、融解過程のモデル化を行ない、その手法を用いた河川流出量の推定を行なうなどの研究成果が紹介された。

(長岡技術科学大学 早川典生記)



ワークショップ風景